

午前十一時三十一分

○額賀衆議院議長 今日、お忙しいところ、ありがとうございます。

これまで、安定的な皇位継承に関しまして全体会議を二回行わせていただきました。その後は、各党各会派から個別に丁寧に見聞を聞くことにした方がよいということで、個別の見聞聴取を行ってきたところであります。各党各会派からの個別聴取を始めた時期が審議日程がタイトであった通常国会終盤と重なったために、御党からの聴取が国会閉会中となつて、今になってしまいました。

本日は、第一回目の全体会議でお示しをいたしました各論点について、また、全体会議について今後の運営の仕方等について御意見をいただければ有り難いと思います。

三十分程度で御意見を述べていただきたいと思います。

この御意見の内容については非公開とすることになっております。ただし、今後の取りまとめの参考にするため、議事録は作成いたしますので、御理解をいただきたいと思います。

また、各党各会派において、この意見聴取の後議長公邸を出られてから、本日御意見を述べられた内容についてプレス等にオープンにすることは、今までは自由です。そういうふうにも言ってきております。

それでは、御意見をいただければ有り難いです。

○神谷宗幣君 ありがとうございます。
全体会議である程度もう方向性は示したとおりなんですけれども、重要とするところは、歴史と

伝統をしっかり尊重してほしいということ、それから、男系男子を基本として議論を進めていくこと、それから、立法院で我々が全て決めるというよりも、皇室、皇族の皆さんの御意見をしっかりと聞いていただいてしかるべき方にその任を担っていただくというふうな流れをつくっていただければいいのではないかなという、これがもう変わらない基本の論点であります。

やはり、宮家の減少という問題がありまして、ここは早く継承者を増やしていかなければいけないというののもう急務でありますから、その方法について論点を挙げていただいているわけですが、私も、我々といましては、先ほども述べましたとおり、男系男子での継承ということ強く要望しておりますので、どういった形にせよ、女系の方の天皇が生まれていくということがないように、その制約だけきちんと付けておいていただけたら、今そんなにたくさん継承を担っていただける方がいるわけではないので、その範囲を広げていくという方法は今回いただいた論点以外にも検討し得るところはあるのではないかなというふうに思いますが、ただ、余り範囲を広げ過ぎると議論が拡散しますので、そうするとやっぱり時間が掛かってしまうと。かねてより、もう既に論点が挙がってきてから何年もたっているということですので、このタイミングで決めていただくことが大切なんではないかというふうに思っています。というところでありますので、そのところだけ考慮いただけましたら、あとは、我々は小さい党ですので、余り我々の党の意見が大きく反映さ

れるというふうには思っていないんですけど、一点だけと言われれば、女系天皇に流れることがないようにだけしていただきたいと、そこを強く訴えたいというのが我が党の要望といえますか考え方であります。

それ以外のところでは、個々の論点はもうこの間申し上げたとおりなので、重複になりますので、逆に私からは、他党の皆さんがどういった感じに今要望があるのかということを少しお聞かせいただけると、また持ち帰って、全体としてはこういう議論の流れだけでも、あとは何かそこに付け加えることがないのかということ。

今後の進め方に関しましては、全体で話をしてなかなかまとまらないと思いますので、これはもう正副議長の方で皆さんの意見を聞いていただいて大体の方向性を示していただくというところじゃないと話は進まないんじゃないかなというふうに考えておりますので、そこを、全体で意見を言い合うということは私は適切ではないかなというふうに思いますし、前回申し上げましたけれども、更に参加者を増やしてより広くという声もありましたが、我々のような小さい、一人しかいない党にもちゃんとこの場を与えていただいて、しっかりと意見聴取していただいていますので、これ以上範囲を広げて議論を拡散させる必要もないかなということも考えております。

以上です。

○額賀衆議院議長 ありがとうございます。
前回と同じように明快に話をしていただいたわけでありましたが、四者の、議長、副議長の了解も

得て、私が各党各会派の皆さん方にお尋ねしていることは、皇位継承に関連して、悠仁様まではお決まりになっておられるという形になっております。これについては、御党でもこれはその前提としてよろしいでしょうかということについてはいかがでしょうか。

○神谷宗幣君 はい。よほどの問題がない限り、もう決まっていますので、そのとおり進めていただければと思っています。

○額賀衆議院議長 それから、今、神谷代表もおっしゃったように、皇族数が減っています。女性皇族の年齢等々の問題もありまして、この問題は喫緊の問題だという有識者会議の話もあります。皇族数を維持していくことについては、皇室制度を安定化させていくためには維持していくことについては、御党ではよろしいでしょうか。

○神谷宗幣君 はい。早急にやっていただくべきだと思っています。

○額賀衆議院議長 ありがとうございます。

この問題については様々な御意見もあります。その中で全体を、皇族数を維持していくこと、女性皇族を維持していくことについては、大方了解をいただいているんじゃないかと、こう思っております。

さらに、これもまた安定した皇室制度をつくっていくために養子についても議論してもらいたいということですが、この点についてはいかがですか。

○神谷宗幣君 はい。養子についても問題ないというふうに思いますし、先ほど申し上げましたよ

うに、取り得る手段は全て可能性として検討してやっていたことが必要かなというふうに思っております。

○額賀衆議院議長 ああ、なるほどね。

各党に私から、前提として、前提というか、一つの考え方としてお聞きをして、共通の課題としてお聞きしたのはそういうことなんです。

それぞれ、議長、副議長、何か御意見なり御質問があれば。

○尾辻参議院議長 今の御意見の中で、女性の天皇は駄目だと。

○神谷宗幣君 女系の。

○尾辻参議院議長 女系のと。ああ、そうか。ごめんなさい。一応理解は。

そうすると、そのところ、もう少し正確に述べてくださいますか。

○神谷宗幣君 分かりました。

男系男子の継承を原則として続けていったきたいんですけれども、やはり歴史上も女性の天皇というのはいらっしゃったわけで、どうしても男性が幼少であるとかそういった場合には女性の天皇が一定期間やっていたというところも過去にありますので、その可能性については全て排除する必要はないんだろうというふうに考えております。

○尾辻参議院議長 女性の天皇は駄目だというふうにおっしゃったわけではないですね。

○神谷宗幣君 そうです。

○尾辻参議院議長 分かりました。ちよつと誤解したので。

○神谷宗幣君 女系に流れないようにしていただきたいと。

○尾辻参議院議長 女系という、はい、分かりました。

どうもありがとうございました。

○海江田衆議院副議長 これ、先ほど額賀議長からお話があつて、まあオーケーということだったんですが、養子の前に女性皇族の方が御結婚後も皇族として残っていたかどうかということについては賛成ということでもいいわけですね、これは。そうですね。

○神谷宗幣君 はい。

○海江田衆議院副議長 あと、ほかの党ともいろいろ聞いていたんですが、その場合のその配偶者の方だとかお子様をどうするかということは、まあいろんな問題があるかと思いますが、もしお考えがあればそれも併せてお聞かせいただきたいなと思います。

○神谷宗幣君 その点は前回もお答えしたんですけれども、やはり線を引くべきであつて、そこで、その方々も皇族というふうになりますと、どうしても、例えばそのお子様が国民にすぐ人気が出てきたというふうになるとそっちの方に皇位をというふうな議論が沸き起こる可能性がありますので、そこはやはり、それが認められると女系の方に流れていってしまうので、そのところをしっかりと線を引いていただきたいというのが先ほど述べた趣旨でございますので、配偶者、お子様に関してはそういった皇族には入らないというふうな形で線を引いていただきたいと考えており

ます。

○額賀衆議院議長 長浜先生は。

○長浜参議院副議長 ございません。

○額賀衆議院議長 海江田先生も。

○海江田衆議院副議長 いや、もう今ので。理屈からいえば、もう女系が駄目だということならばそういうことだとは分かっていますけど、一念のために聞いてみたわけですから。

○神谷宗幣君 もう我が党はそこだけです。それ以外のことにしましては、もう柔軟性を持っているんなアイデアを出していただいて皆さんの合意を取り付けていただければ。

とにかく皇室の存続が一番の最優先課題です。で、そういう資格を持った方がたくさんいらっしゃる状態ということが好ましいので、そこだけは早急にやっていたきたいということでもあります。

○海江田衆議院副議長 あと、男系の女性天皇であればこれはいいという話ですよ。

○神谷宗幣君 そうです。そのところも、まあ継承順位がしっかり決まっているのでそのとおりでいいとは思いますが、ただ、我々は直接どういった適性を持たれた方々というのは分からないので、そこは是非皇族の方々で話し合っていた方がいいと決めたいただければ、その判断に我々は、従うと言ったただけですけれども、それを受け入れて国民世論を形成していくべきかなというふうに私は考えています。何か人気投票みたいな形になるのも違うのかなというふうに思いますので、そこはもう皇族の皆様の御意向をしっかりと反映させていただければそ

れでいいかなと思っています。

○額賀衆議院議長 もう一つ、じゃ、私、質問よろしいですか。

質問というか、全体会議においてもですが、また、各党各会派の意見聴取においても、どちらかというと、国民に分かりやすく議事録をできるだけオープンにしろという話が結構あったんですね。だから、全体を聞いて、御党で各党各会派の意見聴取も終わるんです。そうすると、全体を見ていまして、全体のトーンからすると、オープンにしても支障があるような言動というのは少なかったかなと、こう思っているんです。

皇室制度の問題というのは国民の皆さん方も関心が高いので、できるだけオープンにして分かりやすく、みんなと一緒に議論した方がいいことは確かなので、個別の固有名詞が出たりとか何かすると、週刊誌等にいろいろ取り上げられたりとか余計な混乱を起こすこともあるので、そういうことはなるべく控えた方がいいかなと私は思っています。たんですが、この点については、我々正副議長でもう一回相談をさせてもらいますが、可能な限りオープンにしてもいいですか。

○神谷宗幣君 私たちは黨員とかから質問があったときにもう答えていますので、自分たちの考え方は。なので、我が党の考え方を出示していただくという点に関しては特に問題は感じません。

○額賀衆議院議長 分かりました。
各党各会派の意見も聞いた上で、我々四者で相談をして決めさせていただきたいと思いますが、よろしくお願いします。

○神谷宗幣君 お任せします。

○額賀衆議院議長 何もなかったら。

○尾辻参議院議長 そうですね、十分。

○神谷宗幣君 全体会議で伝えていたことがほとんどです。

○額賀衆議院議長 まあ、三十分たっていないけれども、中身はよく伺いましたので、ありがとうございます。

○神谷宗幣君 是非、早急にいろいろと進めていただければと思います。ありがとうございます。

○額賀衆議院議長 できるだけ早急に意見をまとめたいと思います。

午前十一時四十八分